



鳥類標識調査100周年を機に、 当調査に関する論文の特集号が出版されました

- ・ 鳥類標識調査が日本で始まって2024年で100周年をむかえました。
- ・ 100周年を機に、この調査の紹介やこれを用いた研究などの論文7編を日本鳥学会の英文誌「Ornithological Science」の特集号としてまとめました。
- ・ 本特集は日本鳥学会英文誌編集委員を務める山階鳥類研究所の水田拓 自然誌・保全研究ディレクターが企画・編集を行い、7編のうち4編に所員が著者として参加しています。

日本で鳥類標識調査^{※1}が始まって2024年で100周年をむかえました。これを機に、日本鳥学会が発行する英文誌「Ornithological Science」24巻1号（2025年2月発行）において、鳥類標識調査を対象としたSPECIAL FEATURE^{※2}（以下、特集号）が生まれ、当調査の紹介文および調査にかかわる7編の論文が掲載されました。

紹介文では、日本の鳥類標識調査の歴史とその成果の広がりについて概説しています。7編の論文は、鳥類標識調査により明らかになった鳥類の移動や年齢、形態、個体群の経年変化、保全への応用、調査データの活用の実態と今後の方向性など、幅広いトピックを扱っています。

鳥類標識調査は、2023年に策定された生物多様性国家戦略でもその継続的な実施が位置づけられています。本特集号の公開によって、鳥類標識調査が鳥類の生態の解明、鳥類を含む生態系全体のモニタリング、ひいては生物多様性保全に資する調査であることや、その継続の重要性が広く一般にも認知されることを望みます。

本特集号は、日本鳥学会英文誌編集委員を務める水田拓 自然誌・保全研究ディレクターが企画、編集を行い、また紹介文を執筆しました。そのほか山階鳥類研究所の澤佑介 研究員、千田万里子 専門員、水田 ディレクターの3名が、掲載された7編のうち4編の論文に著者として参加しています。



鳥のサイズや特徴にあわせたさまざまな足環がある



ノゴマに足環をつける

※1：野鳥に足環等を装着して放し、再確認（捕獲・観察）による記録から、野鳥に関する基礎的な生態の解明や保全政策の推進に役立てる調査。日本では1924年に農商務省で開始され、現在は（公財）山階鳥類研究所が環境省の委託業務として行っている。

※2：「Ornithological Science」の中で、関連する論文を複数集めて一つの特集号とする枠。



公益財団法人 山階鳥類研究所

掲載論文リスト

Ornithological Science 24 (1) SPECIAL FEATURE: One hundred years of bird banding in Japan

[特集号] 日本の鳥類標識調査の100年

- “One hundred years of bird banding in Japan – Introduction” Taku Mizuta (日本の鳥類標識調査の100年 – はじめに: 水田拓)
- “Apparent annual survival rates of male Ryukyu Scops Owls on eight islands in the Ryukyu Archipelago” Masaoki TAKAGI, Akira SAWADA (琉球列島8島におけるリュウキュウコノハズクの雄の見かけの年間生存率: 高木昌興・澤田明)
- “Interspecific and individual differences in the tongue spots of three grasshopper warbler species in Hokkaido, Japan” Masaoki TAKAGI, Miho IWASAKI, So SHIRAIWA, Shohei FURUMAKI (北海道におけるセンニュウ類3種の舌斑の種間差および個体差: 高木昌興・岩崎美穂・白岩颯・古巻翔平)
- “Geographic variation in body size of Black-headed Gull *Chroicocephalus ridibundus*” Hiroshi ARIMA, Hisashi SUGAWA, Yusuke SAWA (ユリカモメの体サイズの地理的変異: 有馬浩史・須川恒・澤佑介)
- “Constant-effort mist net bird monitoring during the breeding season in a lowland deciduous forest in western Hokkaido, Japan” Noritomo KAWAJI, Shin MATSUI, Takayuki KAWAHARA, Tatsuya NAKADA (北海道西部低地落葉広葉樹林における標識調査を用いた繁殖鳥類の定量的モニタリング: 川路則友・松井晋・河原孝行・中田達哉)
- “Survival and movement of the endangered Amami Woodcock *Scolopax mira* revealed through banding on Amami-Oshima Island” Hisahiro TORIKAI, Hidemi KAWAGUCHI, Taku MIZUTA (標識調査によって明らかになった奄美大島における絶滅危惧種アマミヤマシギの生存と移動: 鳥飼久裕・川口秀美・水田拓)
- “Variation in seasonal movement and body size of wintering populations of Black-headed Gull in Japan” Yusuke SAWA, Hisashi SUGAWA, Takeshi WADA, Tatsuo SATO, Hiroshi ARIMA, Norie YOMODA, Isao NISHIUMI (日本のユリカモメ越冬個体群の季節移動と体サイズの変異: 澤佑介・須川恒・和田岳・佐藤達夫・有馬浩史・四方田紀恵・西海功)
- “Knowledge gaps remaining in the spatial analysis of bird banding data: A review, focusing on use of Japanese data” Daisuke AOKI, Mariko SENDA (鳥類標識調査を用いた空間解析における知識のギャップ: 日本のデータの利用に着目したレビュー: 青木大輔・千田万里子)



調査現場

この件についてのお問い合わせ先:

公益財団法人 山階鳥類研究所

千葉県我孫子市高野山115

電話: 04-7182-1101

担当: 広報 山岡容子 (Eメール: pressrelease@yamashina.or.jp)

・写真・図版のデジタルデータをご希望の方もお問い合わせください。